



まず、「食や食品についての正しい知識や情報を提供します」に関する事業展開について、担当課の評価はBである。「つきいち」は、毎月第3火曜日開催で、市民に周知し、定着している状況から、変更の予定はない。生産者である富士見市農業研究団体連絡協議会の団体が参加しており、現在の開催頻度が適当と考えている。生産者の一部には、市内外のスーパーや直売所等にも生産物を卸しており、安定した品物の確保が難しい。農作物の状況をみながら、つきいちに参加可能な生産者を増やしたいと考えている。

次に「農業へ理解が深まるよう推進します」に関する事業展開について、こちらも担当課の評価がBである。事業に協力可能な市内農業者や事業者を確保することが課題となっている。今後とも機会を捉えて市内農業者や事業者に対して当事業に関する情報提供を行い、協力を仰ぎたいと考えている。グリーンツーリズムに関しては、市民対象の内容と農業者対象の内容を隔年で開催しており、平成30年度は市民対象のものを予定している。

次に、「地元食材を積極的に活用します」という事業展開についても担当課の評価がBである。市内農業者、商業者等が意見交換を行う場である農商工連携推進会議に市担当者も参加し、地元食材を活用できる店舗の開拓や他市との情報交換等に努めていきたい。また、引き続き富士見市元気プロジェクトカタログに店舗等の情報を掲載していく。

続いて、「地元産食材の供給体制の整備に努めます」に関する事業展開について、こちらも担当課の評価はBである。農商工連携推進会議や、産業振興審議会等において市内農業者、事業者の意見、要望の把握に努めていく。平成29年度の新たな取り組みとして、富士見市のお酒である純米吟醸酒の縄文海進の原酒を使った梅酒の製造・販売を支援している。

最後に「地元産農作物や地産地消活動の情報提供に努めます」に関する事業展開については、担当課の評価がCである。現在は、市内のイベント開催時に市内農産物をPRするため農業マップを配布しているが、今後は埼玉県へ市内イベント等の情報提供を行っていく。内容は、「つきいち」、「富士見市ふるさとまつり」、「ふじみマーケット」、市内産農作物、新米のPRイベント、キラリ☆ふじみでのイベント、「ふじみ大地の収穫祭」、「なんばた青空市場」、「菜の花まつり」、「菜の花フェスタ」を予定している。市外のイベント参加も行う。県庁で行われる「ふるさと埼玉朝市」や東松島市の復興支援の夏祭り、富士見市産の梨の販売など出店協力をしていく。また地場産品ショップ「ゆい」に対する直売支援、食育推進室における地産地消の料理教室の他、市の広報、市・県のホームページ等を活用した様々な情報発信を行っていく予定である。

議長

母子保健推進員連絡協議会、朝霞保健所からも意見をいただいたようだが、ここに記載してある通りということでしょうか。

事務局

その通りである。

議長

何か意見はあるか。

委員一同 議長	(意見なし) 産業振興課からの回答により、保留となっていた項目はよく理解できた。現状のまま継続でよいと思うが、何か意見はあるか。
委員一同 議長	(意見なし) 評価Aとしてよろしいか。よいと思われる方は、挙手をお願いする。
委員一同 議長	(全員挙手) 次に第2節「身体活動・運動、子どもの運動に親しむ力と体力づくりの推進」について説明をお願いする。
事務局	第2節の2「子どもの運動に親しむ力と体力づくりの推進」で前回質問のあった定期健康診査の結果について説明する。資料2は、富士見市養護研究部発行の平成28年度学校保健総計報告書の抜粋である。定期健康診断結果項目として「脊柱・胸郭・四肢の状態」がある。平成27年度までは、この項目が「脊柱・胸郭異常」のみであったが、平成28年度より「四肢の状態」が必須項目として、追加された。健診結果について、「脊柱・胸郭・四肢の状態」の項目における「異常」の数値は、富士見市の小学校の平均が1.8%に対して全国平均が1.83%、富士見市の中学校の平均が4.5%に対して全国平均が3.43%であった。中学校が全国平均よりも高い数値となっている。参考として、平成27年度における「脊柱・胸郭異常」項目の異常の数値では富士見市の小学校の平均が0.2%に対して、全国平均が1.02%、富士見市の中学校の平均が0.9%に対して全国平均は0.74%であった。平成27年度に関しても、中学校が全国平均よりも高い数値となっている。検査項目に「四肢の状態」が追加されたので、単純な比較はできないが、「脊柱・胸郭・四肢の状態」で異常と判定された者の割合がやや増加しているように見える数値であった。
議長	子どもロコモの検査をして、受診勧告を受けた児童生徒を含めた値なので高くなってしまったと思う。「脊柱」は主に側弯症、「胸郭」は主に漏斗胸の有無を検査していた。今回は座れるか、また、座った姿勢から立てるのかを検査したら「異常」と判定される児童生徒が多かったという結果であった。運動能力の結果が把握できていないので、中学生の体力が全国平均より低いとは一概には言えない。 この学校保健統計報告書を読んで、医者立場から子どもの疾患について気付いた点があるので報告する。アトピー性皮膚炎である子どもの割合が富士見市の小学生の平均が8.5%に対して全国平均が3.18%、富士見市の中学生の平均が8.2%に対して全国平均が2.66%であり、どちらも全国平均よりも高い数値である点は、特記すべきことである。同様に、喘息に関しても、富士見市の小学生の平均が7.1%に対して全国平均が3.69%、富士見市の中学生の平均が5.8%に対して全国平均が2.90%であった。かつて喘息と診断されたことがある子どもも含まれている数値かもしれないが、小学生、中学生どちらも、アレルギー性疾患が極めて多く、医師会として、今後も焦点を絞ったフォローアップをしていきたいと考えている。第2節の2「子どもの

	<p>運動に親しむ力と体力づくりの推進」については、前回疑問があった点の説明があったので、よいと思う。</p> <p>次に富士見市の健康づくり及び食育の推進についてということで、これまで審議してきた「健康ライフ☆ふじみ」に関する市内の事業の取組状況を踏まえ、委員が各方面・各分野において取り組んでいることや感じていることについて、意見交換を行いたい。はじめに、第1節の「栄養・食生活」について意見を願います。なにか意見はあるか。</p>
委員一同	(意見なし)
議長	<p>次は第2節「身体活動・運動」について。前回の議題にもあった「スポーツフェスタ」では、体育館が利用できるようになったので参加者が増えるのではないかという話があったがいかがか。</p>
委員	<p>結果としては、あまり増えてはいない。1年に1回しか行われないイベントも多々あり、また野外で行われるイベントは全て雨であったので体育館で行った。また、「ウォーク&amp;ウォーク」という約5キロ歩いて、途中で大根を掘って持って帰れるイベントがあり、毎回70名位参加しているが、これは中止になってしまった。</p>
議長	<p>第2節に対する審議会の評価は、参加者数や運動習慣づくりを拡大していく、ということでB評価にしたと記憶するが、何か意見はあるか。</p> <p>各学校で体力テストを実施していると思うが、その評価結果がわからない。元の資料がないので県や全国平均との対比ができない。</p>
委員	<p>学校保健統計で「四肢の状態」が健診の必須項目となり、富士見市の中学生が全国平均よりも「異常」の数値が高い結果ということであったが、関連するの</p>
議長	<p>まとめ方がはっきり分からない。何とも言えない。</p> <p>学校保健統計といえ、話題は少し転じるが、アレルギー疾患は、既往も含めて書いてあるのか。</p>
委員	<p>毎年、定期健康診断を実施しているので、アレルギー疾患は現在の罹患状態ではないか。アレルギーは我が国の大変な問題になっているというのは確かであるが、富士見市が特に多いという、例えば四日市喘息のような特別な状況になっているのか。</p>
議長	<p>なっていない。昔と比較したら喘息の子どもも少なくなったと思うし、外来を受診する子も少なくなった。ひとえにステロイド等、吸入療法が普及した結果だと思う。</p>
委員	<p>学校では、チヂミを食べて死亡した事例もあり、食物アレルギーが大変問題となっている。また、食物だけではなくて、様々なアレルギーもある。</p>
議長	<p>あくまで数値上このような結果が出ており、統計処理の仕方は分からないのだが、実態と数値の間には差があると思う。</p>
委員	<p>自分のことなのだが、私はアトピーも喘息もある。40年位前、空気がきれいな頃の富士見市に引っ越してきて、喘息がなくなった。先ほど、富士見市の小</p>

	<p>中学生は、アレルギー性疾患が極めて多いという結果があったが、富士見市の環境が悪いというわけではない。富士見市と近隣の市が同じ結果であれば、それほど悪くはないのかもしれない。この結果で示す全国平均はどのようなデータなのか。例えば都市部と都市部以外を比較しているなどのデータがあればよいと思う。</p>
議長	<p>確かに昔は、子どもが喘息をもっている、空気が良いという理由で地方に転居する人もいた。このような話は、意外と多かったと記憶するので、着目していきたいと思う。</p>
委員一同	<p>高齢者の運動推進に関してはパワーアップ体操が様々な場所で実施されている。ますます広がっていったらと思う。他に意見が無いようなら第2節全体も前回の評価と同じでよいか。よければ挙手をお願いします。</p>
議長	<p>(全員挙手)</p>
委員一同	<p>第3節「健康管理」について、何か意見はあるか。</p>
議長	<p>(意見なし)</p>
事務局	<p>朝霞保健所の取り組みとして「エイズ検査・相談の実施を月2回している」、「水質検査をしている」とあるが、市独自では取り組んではいないのか。保健所事業なのか。</p>
議長	<p>保健所が所管している。水質検査等は、相談があれば保健所を紹介している。感染症の相談となると、朝霞保健所は結構遠い。出張相談などはあるのか。</p>
事務局	<p>保健所事業の出張相談を市で実施することはない。感染症に関しては、保健所に問い合わせれば、必要な対応をしてもらえる。</p>
議長	<p>何か意見はあるか。</p>
委員一同	<p>(意見なし)</p>
議長	<p>無いようであれば、前回の通りの評価でよいか。よければ、挙手をお願いします。</p>
委員一同	<p>(全員挙手)</p>
議長	<p>それでは、前回の審議会で決定した通りとする。第4節の「こころの健康」に関してだが、市独自の相談窓口があるのか。</p>
事務局	<p>成人については、障がい福祉課に窓口があり、月1回のこころの健康相談を実施している。児童・生徒については、教育相談室等で対応している。</p>
議長	<p>引き続き力を入れてほしい。この項目に関しては前回A評価になっているが、よいか。よければ挙手をお願いします。</p>
委員一同	<p>(全員挙手)</p>
議長	<p>それでは第5節「歯と口腔の健康」に関して、委員より、質問事項、説明事項等何かあるか。</p>
委員	<p>成人歯科健診の受診者が少ないことは毎年の課題になっており、市に対策を要望している。高校生までは学校で必ず歯科健診を実施するが、大学生や社会人は健診の機会がなくなる。切れ目が無い健診事業を進めるために対象年齢を18歳まで引き下げたいと思っている。成人式や長寿の節目のタイミングで対象者に健診を勧め、普及啓発することも考えている。昨年度から埼玉県後期高齢</p>

<p>議 長</p> <p>委 員</p> <p>議 長</p> <p>議 長</p> <p>委 員</p> <p>議 長</p> <p>委員一同</p> <p>議 長</p> <p>委員一同</p>	<p>者医療広域連合で実施する75歳の市民を対象とした1年限りの健診が始まり、直接本人に健診票が郵送されている。それを持参する人がかなり多い。なるべく健診を受けられるようなシステムを作っていきたいと思っている。来週、歯科医師会と行政との会議を予定している。</p> <p>このことは、切れ目のない健診を目指しているということで、今後の課題のところに加筆した方がよいか。</p> <p>そうしたい。</p> <p>課題のところに切れ目のない健診を拡大したいということを入れることとする。</p> <p>富士見市の学校のむし歯の未処置者が小学生で17.3%、全国平均で24.86%、富士見市は全国平均よりも未処置者は少ない。中学生は11.8%、これも全国平均16.51%と比べて少ない。富士見市の児童・生徒は健診後すぐに歯科医のもとに行って処置している、と見てとれる。</p> <p>学校の協力により、夏休み前に何回も話をしてもらっている。</p> <p>歯と口腔の健康に関しては、前回評価した通りでよいか。挙手をお願いする。 (全員挙手)</p> <p>特定保健指導についてだが、国民健康保険加入者に対しては健康増進センターが特定保健指導を実施している。また、特定保健指導を行う医療機関が市内に11機関あるが、定期的に行う医療機関は2機関しかない。特定保健指導については、医師会活動を通じて充実させていかないと、やりっぱなし健診になってしまうので、今後の課題として、反省している。</p> <p>他に何か全体を通して気づいた点はあるか。 (意見なし)</p>
<p>(2) 富士見市の健康づくりと食育の推進について (意見交換)</p>	
<p>議 長</p> <p>委 員</p> <p>議 長</p> <p>委 員</p>	<p>富士見市の健康づくりと食育の推進について何か意見はあるか。</p> <p>富士見市産の農産物を市内でどれだけ取り扱っているかというデータを出してみた。米は学校給食センターで年間89,600kg(89t)使用している。平成27年度よりは少し減ったが、米飯給食も増えているからなのか年々増加している。保育所は3か所が地元産米を使用していて年間3,599kgである。その他の保育所については把握していない。他の農産物ではきゅうりを6,600kg使用しており、年々増加している。市で「つきいち」への参加協力につき依頼していると思うが、時々は農薬の安全基準等調査をした方がよいと思う。農協に出している野菜は、概ね月に1回農薬検査を行っている。検査費用はかかるが、地元で採れた安心安全、そして新鮮な作物を提供するというPRにもなるのではないかと思う。</p> <p>きゅうり6,600kgは相当な量であると思う。</p> <p>きゅうりは、収穫が安定しやすく、提供実績がある。給食等で使用してもらうには、必要量が安定して揃わないといけない。多くの品目でこれを実現するの</p>

委員	は難しい。
委員	富士見市はかぶが有名と聞く。
委員	かぶが一番有名である。
委員	いろいろある中で、富士見市のかぶが一番美味しいし、大きい。スーパーで売っているのは、〇〇さんの作ったものです等の名前が書いてあるものがあるが、農協と関係はないのか？
委員	スーパーに直接農家が卸していることがある。産直組合という組合を作り、ここを通してスーパーに卸している。スーパーほど農薬の基準に厳しいところはなく、全部検査結果を持参し、基準を満たしていれば売ってもらえるというシステムになっている。
委員	普段は、スーパーで買い物をするが、直売で買う富士見市産の小松菜は美味しい。
委員	直売で出ている野菜は、市場に出る野菜と品種自体が違う。市場に出すものは、味重視というよりは、見た目重視で、作りやすく病気になりにくい品種を出すことが多い。直売で扱う野菜は、身近な人に対して販売する物であり、自分の名前もついているので、味重視になる。直売の場合は、たくさんの品種がある中で、美味しい品種のものを作ろうという考え方、動き方になっていく。
委員	スーパーに行っても「富士見市の野菜」という判断がつかない。「富士見市の野菜」という名前がはっきりと分かると良い。
議長	地産地消と分かるとよい。
委員	地元の人には地産地消を意識している。
委員	産業振興課と検討する。三芳町、ふじみ野市はシールを提供してくれる。富士見市も「富士見市産」というシール提供している。
議長	地元のものという少し意識するので、目立つ形で示されるとよい。
委員	産直組合を含めて話をしてみる。
委員	商工会は「富士見市元気プロジェクトカタログ2017」を作成し、「逸品」といって地元の特化した商品や地元産農産物のトマトやお米などを掲載している。銀行などで配布しているので、気づいたら手に取って見てほしい。また、酒販組合と共に「縄文海進」という日本酒をずっと作ってきたが、そのお酒の残りとお米で採れた梅を使用して、焼酎ではなく日本酒を使用した梅酒「梅恋花」を今年初めて、11月から販売したが、好評により完売した。また来年も販売していく予定である。
(3) 今後の予定について	
議長 事務局	今後の予定に関して、事務局より説明する。 本日の審議結果を担当課へ再度フィードバックする。その後進捗状況調査を完成させて、3月には市長に答申をする。本来なら、委員全員が揃って答申する形が良いと思うが、多忙な中、再度全員が参集することは難しいので、会長が代表として、市長に報告をする形で進めてもよいか。

<p>委員一同 事務局 議長</p> <p>委員 (閉会の言葉)</p>	<p>(異議なし)</p> <p>そのように進める。</p> <p>各委員の貴重な意見が、健康ライフ☆ふじみを推進していく上でとても重要なものとなる。今後も計画の進行管理について、積極的な意見、審議をお願いする。</p> <p>様々な取り組みが審議会の中でもう一度検討され、その評価結果が市長に届く。意義深い会議であると思う。これをもって、第2回富士見市健康づくり審議会を閉会する。ありがとうございました。</p>
<p>4 その他 (特になし)</p>	
<p>5 閉会</p>	